

四国横断自動車道 勝浦川渡河橋の整備に関する環境保全検討委員会 (第8回)

前回委員会における主な意見及び回答



令和7年12月1日

3-1-1 前回委員会における主な意見及び回答

▶ ○前回委員会(R6.12)にて頂いた意見及び回答

意見内容	意見に対する回答	ページ
<p>1</p> <p>■■■■■ については再度調査を実施し、前回確認された種が今も存在しているかどうか確認をお願いしたい。</p>	<p>勝浦川渡河橋右岸側において、工事計画の進捗に伴い工事影響の範囲が変更になった。工事影響の範囲の変更に伴い、令和6年度に植物重要種及び■■■■■の分布調査を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査の結果、■■■■■の■■■■■8種、■■■■■及び■■■■■の計10種を確認した。いずれの種も過年度に確認されている重要種であった。 ■■■■■の改変率は約7割であり、工事による生息地の直接改変により消失する。 	<p>3-2-1</p>
<p>2</p> <p>■■■■■の移植にあたっては、生育が集中している場所とそうではない場所の環境の違いを把握したうえで、移植計画を立案する必要がある。また、移植に関する一連の作業について、ロードマップを示していただきたい。</p>	<p>■■■■■の移植地について、■■■■■の生育適地としての妥当性を検証するため、メッシュ区画評価(地形調査・生育環境調査)を実施した。</p> <p>移植候補地は、地形の傾斜と混生林(落葉樹が混生する常緑樹林)の割合による評価点の高いメッシュ区画がまとまっている範囲とした。さらに、現地状況が低木やつる植物が繁茂して藪状となっていないこと等を確認し、移植に適した環境を選定した。</p> <p>移植は令和7年3月に行い、その後、令和7年4月及び令和7年11月に移植後モニタリングを実施した。</p> <p>移植約8ヵ月後の現在、移植個体は概ね良好に生育していることを確認した。</p>	<p>3-2-2 ~ 3-2-6</p>

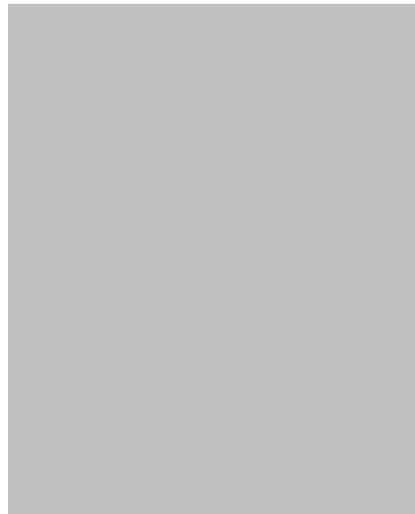
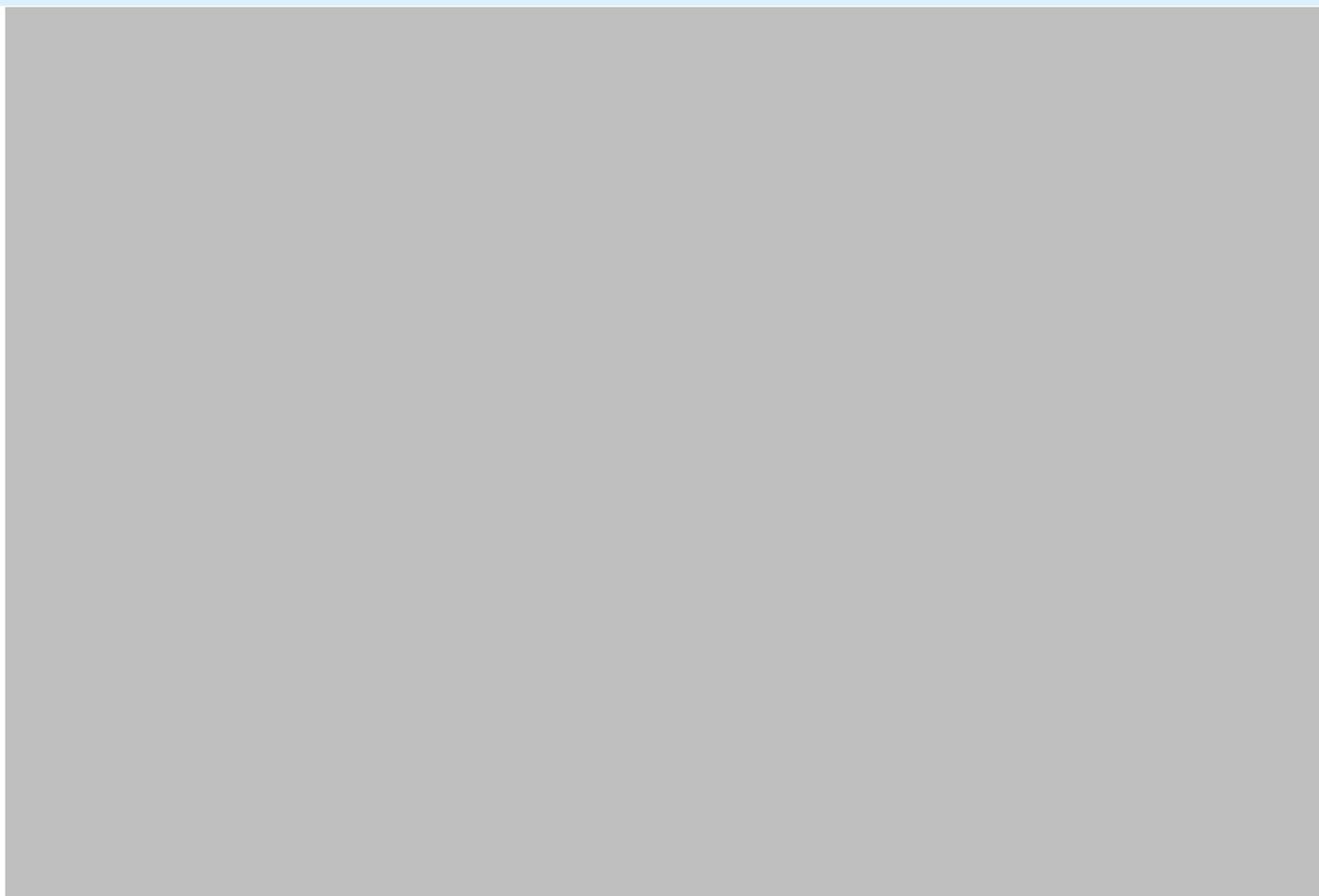
3-1-2 前回委員会における主な意見及び回答

▶ ○前回委員会(R6.12)にて頂いた意見及び回答

意見内容		意見に対する回答	ページ
3	アルゼンチンアリの状況については、時々調査を実施した方が良いので検討していただきたい。	起業地内のアルゼンチンアリの生息状況について、令和7年11月に調査を実施した。 調査の結果、起業地内でアルゼンチンアリの生息を確認した。 今後の対応については、県との調整を図りつつ、方針を検討していく。	3-3-1
4	底生生物等については、工事前と比較して工事開始後も種組成に大きな変化が生じていないことを明記したほうがよい。	ご指摘のとおり明記いたしました。	資料5 モニタリング調査結果
5	アユの状況については現時点で工事の影響があるとは考えにくいですが、年変動も大きいいため引き続き調査を継続し、データを蓄積していただきたい。また、遡上状況について主要河川別の状況を示していただきたい。	ご指摘のとおり明記いたしました。	資料5 モニタリング調査結果

◆ 令和6年度 [redacted] に関する調査結果

- ▶ 工事影響の範囲の変更に伴い、植物重要種及び [redacted] 分布調査を令和6年10月に実施。
- ▶ 調査の結果、[redacted] 8種、[redacted] 及び [redacted] の計10種を確認。いずれの種も過年度に確認している重要種であった。



の移植地の検討(1/2)

は、規約細則1(3)に該当するため非公開

- ▶ 移植計画の検討においては、**第6回委員会の意見も踏まえ、生育適地としての妥当性を検証**することとした。
- ▶ 妥当性検証のための**メッシュ区画調査(地形調査・生育環境調査)**を令和7年2月に実施した。
- ▶ 調査の結果、は**平坦な地形**かつ**落葉樹が混生する樹林(混生林)**に生育する傾向を確認した。

メッシュ区画及び調査地点



<生育環境調査>

代表的なメッシュ区画10地点で、以下の項目を調査

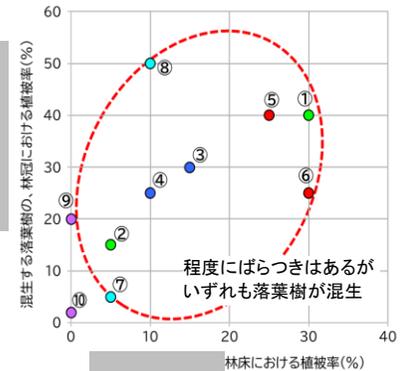
- ・林冠(常緑樹/落葉樹)の特徴
- ・林床()の特徴
- ・土壌(土性/土湿)の特徴



【地点⑤の状況】

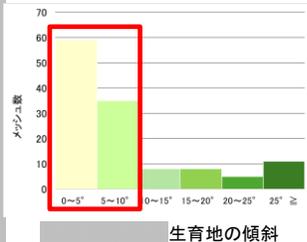


全体として常緑樹主体で林内は暗いが、混生する落葉樹が林冠の一部を形成する場所では、落葉によって冬季に林内が明るくなる。そのような場所では、が多数生育していた。



<地形との関係>

LP測量図を用いてメッシュにおける地形(傾斜)を整理



※LP測量データが不足する一部範囲は国土地理院5mメッシュDEMの値で補充

⇒群落が存在する地点は**大部分が比較的平坦な地形**であることを確認

⇒ が多数生育している(植被率が高い)地点は、常緑樹林の中でも**落葉樹が混生している樹林(混成林)**であることを確認

の移植地の検討(2/2)

- ▶ 調査範囲の樹林を混生林と常緑樹林の2つに区分し、地形と混生林を軸としてメッシュごとの評価を実施した。
- ▶ 移植地は、改変区域外で9点以上のメッシュ区画がまとまっている範囲を候補地とし、実際に現地状況を確認(の既存群落がないか、他の植物等が繁茂し藪状となっていないか等)した上で選定した。

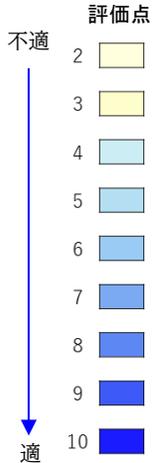
<植生図の更新>

調査範囲の樹林を「常緑樹林」と落葉樹が混生する「混生林」の2つに区分



<評価結果>

は、規約細則1(3)に該当するため非公開

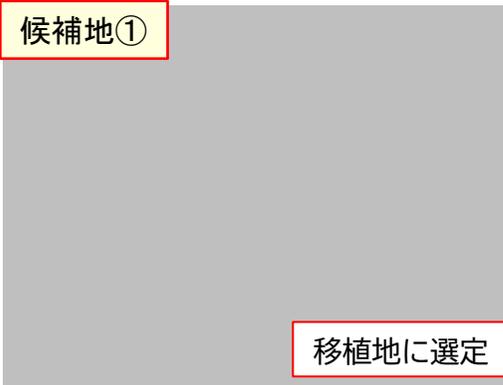


<評価の考え方>

		混生林の面積割合※				
		0~20%	20~40%	40~60%	60~80%	80%以上
地形の傾斜	20° 以上	2点	3点	4点	5点	6点
	15~20°	3点	4点	5点	6点	7点
	10~15°	4点	5点	6点	7点	8点
	5~10°	5点	6点	7点	8点	9点
	5° 未満	6点	7点	8点	9点	10点

※「混成林」が各メッシュ内で占める面積の割合を示す。

候補地①



移植地に選定

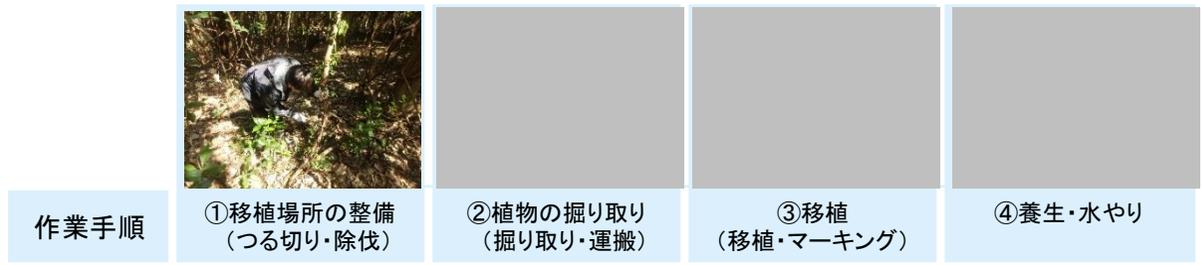
(参考)候補地②



他の植物が藪状に繁茂

◆ [] 等の移植

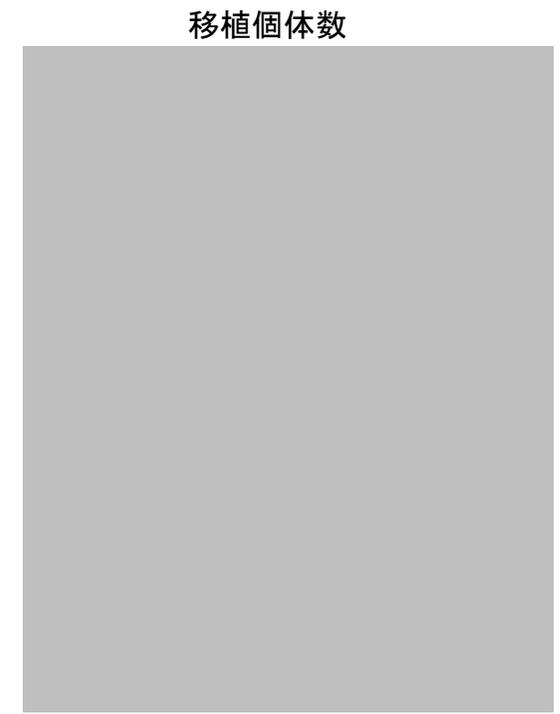
▶ 令和7年3月に [] 140個体、 [] 7個体及び [] 4個体の合計151個体を移植。
 ⇒ [] の主要構成種 [] も移植対象とし、本種が密生する複数箇所から移植。



移植作業の実施状況(令和7年3月)



移植位置図



備考1) 環境省RLや徳島県RLの選定種ではないが、学識者の所見に基づき移植を実施した種及び雑種
 []
 []
 []
 備考2) [] は2ブロックに分けて移植しており、30株移植予定に対して各ブロック予定に対して各ブロックで16株を移植(計32株)

等の移植後モニタリング(令和7年4月、11月)

- ▶ 移植から約1ヵ月後(令和7年4月)及び約8ヵ月後(令和7年11月)にモニタリングを実施し、移植個体の生育状況を確認した。
- ▶ 約8ヵ月後の現在、移植した全151個体のうち、140個体の生育を確認し、うち136個体が良好に生育していた。
- ▶ については、移植した140個体のうち、127個体(約9割)が良好に生育していた。孢子葉をつけた個体も比較的多くみられ、移植個体は定着したものと考えられる。
- ▶ 生育不良(萎れ)の3株について、保全措置として施肥と水やりを行った。なお、10個体は消失していた。
- ▶ の生育不良や消失について、これらの個体の大半で獣害(動物による穴掘り)があったことが影響したと考えられる。

等のモニタリング結果(表中の数字は個体数)



備考) R7.4月の生育不良5個体については、モニタリング時に施肥や水やりを行った。11月にはこれらの5個体すべてで良好な生育を確認。

移植8ヵ月後



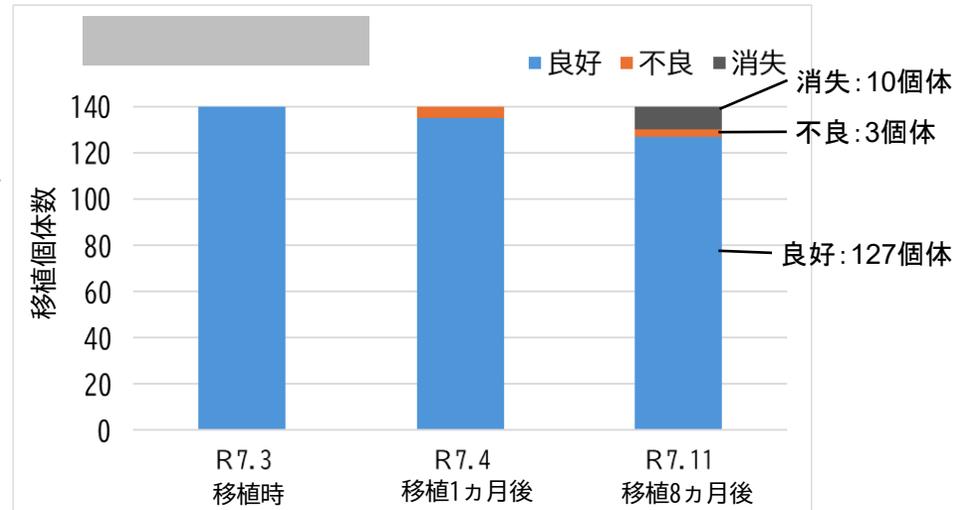
良好に生育



不良(葉の萎れ)



消失(動物による穴掘り)



の生育状況

における今後の予定について

- ▶ 令和6年10月の調査結果および第6回・第7回委員会の助言等を踏まえ、令和7年3月に移植を実施した。
- ▶ 移植後のモニタリング調査では、良好な定着状況が確認できた。
- ▶ 今後もモニタリングを適宜実施し、生育状況を把握。モニタリングは、右岸の工事完了から1年後まで継続予定。なお、工事の進捗に伴い、右岸工事箇所 of 樹林の状態によっては再度移植(埋め戻し)を行う可能性がある。

内容 \ 年度	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	...	右岸工事 着手	...	右岸工事 完了	右岸工事 完了1年後
工事施工(右岸)			工事計画 更新							
植物調査	●						●	●	●	●
亜属調査	●		●							
環境保全措置			●	●						
モニタリング			●	●	●		●	●	●	●
委員会	● 第6回		● 第7回	● 第8回						

→ : 委員会・委員からの助言・指導
→ : 委員会への報告
→ : 調査結果等の反映
● : 実施(灰色は未確定を示す)

は、規約細則1(3)に該当するため非公開

◆ 津田地区におけるアルゼンチンアリ(特定外来生物)の生息状況

- ▶ 勝浦川渡河橋左岸側の陸上部における工事ヤードにて、令和7年11月にショ糖トラップによる調査を実施した。
- ▶ 調査を実施した工事ヤードの広範囲で、特定外来生物アルゼンチンアリの生息を確認した。
- ▶ 確認した箇所の環境は構造物、草地、裸地等様々であったが、工事ヤード南東部の人工裸地や資材置き場では確認個体数が少なかった。
- ▶ トラップ設置箇所以外にも、存置された資材の下で多数の個体を確認した箇所もあった。

